



## 小中一貫教育に向けた施設等のあり方

町内の小・中学校の校舎等竣工と、建築後の経過年数については下表のとおりです。

	色麻小	清水小	色麻中	給食センター	大村プール
校舎	昭36(49)	昭40(45)	昭52(33)	平14(8)	
体育館	平7(15)	昭62(23)	昭54(31)		
プール	昭39(46)	昭41(44)	平17(5)		昭48(37)

( )内の数値は、平成21年末時点での経過年数を示す。

校舎等の耐用年数は一般に60年とされていることから、校舎とプールについては色麻小と清水小が、比較的その時期に近いことが分かります。体育館については、色麻中が最も古いことにはなりますが、耐用年数の約半分の30年残っています。以上のことから、大規模改修(H10)や耐震補強(H15)も施され、給食センターや町の各種施設が隣接している色麻中の施設を生かした小中一貫校とすることで進めています。

さらに、小・中学校の教師が互いに児童・生徒の学力・生活両面の理解に努め、小・中の接続をスムーズに行い(特に、小6と中1の接続がよりスムーズに行えるように)、9年間に渡りそれぞれの発達段階に即した適切な指導を連携して行えることが最大のメリットとなります。即ち、児童・生徒間の交流は勿論のこと、小学校と中学校というもともと文化の違う校種の教師同士の交流と相互理解が、児童・生徒のより良い成長や学力向上につながるのです。

そのためには、やはり校舎等施設が隣接又は一体化していることが望ましいだけでなく、小・中学校の教師が1つの職員室で日常的に情報交換したり、指導方法等について打合せができる環境が大切なのです。

いろいろ先進校の話聞いてみると、一貫校になる前は小学生が中学生の不良行為をまねたり、非行が低年齢化するのではないかという不安を抱く親御さんや地域の方々が少なくないのですが、結果的にはいじめや不登校がほとんどなくなったり、学校の荒れが治まり中学生が優しくなった。子どもたちの笑顔が増えた。登下校時の不審者対策の心配がなくなった。等々、小中一貫教育効果が多く報告されています。



心配なことと言えば、小学校の1単位時間は45分ですが、中学校では50分で行われています。その場合チャイムはどうするのか？小・中学校独自の行事と合同で実施する行事等をどのように調整しながら実施していくのか？PTA組織はどうなるのか？・・・など少々不安もありますが、今後日本各地の先進校の取組例を参考にしながら、色麻町に合ったスタイルを模索していくことで、よりよい方向が見出せると考えます。